

神田由築. 2025. 豊後国浜之市の曲馬芝居と見世物. p.243-256. 井奥成彦 (編) 動物たちの江戸時代. 慶應義塾大学出版会, 東京.

松森胤保. 2023. 改訂新版 両羽博物図譜 原文篇 第2部・動物篇 II. 近世植物・動物・鉱物図譜集成 諸国産物帳集成第3期. 科学書院, 東京.

宮城県. 2021 (2025年12月1日確認). 宮城県レッドデータブック 2016 について. <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red-book2016.html>

日本自然保護協会. 2004 (2025年12月1日確認). 自

然しらべ2003「日本全国カメさがし」結果レポート. [https://www.nacsj.or.jp/wp/wp-content/uploads/2003/07/ss2003\\_report.pdf](https://www.nacsj.or.jp/wp/wp-content/uploads/2003/07/ss2003_report.pdf)

酒田市立図書館ホームページ. (2025年12月1日確認). 両羽博物図譜の世界. <https://miraini-sakata.jp/sakata-lib/matumori/index.html>

山形県みどり自然課. 2017 (2025年12月1日確認). 平成28年度 絶滅危惧種保全・外来種防除対策事業 (外来種生息状況調査) 報告書. <https://www.pref.yamagata.jp/documents/2432/h28akamimigamehoukokusho.pdf>

---

## 爬虫類・両生類の展示即売会におけるニホンイシガメの相場

加賀山翔一<sup>1,2</sup>・今津健志<sup>2</sup>

<sup>1</sup>一般社団法人淡水生態研究所 京都府長岡京市久貝2丁目2-22

<sup>2</sup>千葉県ニホンイシガメ保護対策協議会 〒130-0022 東京都墨田区江東橋3-3-7 (東京環境工科専門学校内)

The market price of the Japanese pond turtles (*Mauremys japonica*) in exhibition and sale of reptiles and amphibians in Japan.

By Shawichi KAGAYAMA<sup>1</sup> and Takeshi IMAZU<sup>2</sup>

<sup>1</sup> *Institute of Freshwater Ecological Research, Kugai 2-2-22, Nagaokakyo, Kyoto 617-0837, Japan*

<sup>2</sup> *Conservation Activity Council of the Native Freshwater Turtles in Chiba Prefecture, 3-3-7 Kotobashi, Sumida-ku, Tokyo 130-8606, Japan*

---

### はじめに

野生個体の過剰採集 (以下, 乱獲) は, 世界各地でカメ類を劇的に減少させてきた主要因の1つである (Gibbons et al., 2000; Moll and Moll, 2004; Stanford et al., 2020). 乱獲されたカメ類は食用, 薬用及びペット用として現地で利用されるとともに, 世界各地へと輸出されたものが商業流通している.

野外では, 多くのカメ類は成体 (メス) の生存率が非常に高く, 長い寿命の中で何度も産卵する

ことができる一方で, 成熟までに長期間を要し, 卵内の胚発生中や孵化幼体等の初期の生存率は非常に低く (Iverson, 1991), ほとんどの個体が成体まで生き残れない. このような生態的特徴から, カメ類の野外集団においてはひとたび成体の個体数が激減すると, 元の水準まで回復するのに長い時間を要すること (Pitt and Nickerson, 2013; Mullin et al. 2020), もしくは長期間が経過しても回復しないことが指摘されている (Keevil et al., 2018). 以上のことから, 持続的

に野生個体を商業利用することが可能な採集方法の確立が強く求められていた。

その一方で、個体群動態を予測するシミュレーションでは、カメ類は野生個体の持続的な利用が不可能であることが多くの研究者らによって指摘されている (Congdon et al., 1993, 1994; Dodd et al., 2016; Rachmansah et al., 2020)。これは、幼齢期から若齢期の非常に高い死亡率と遅い成熟といった生態的特徴から、カメ類は成体の生存率が僅かに低下するだけで個体数が減少していく生物だからである (Congdon et al., 1993, 1994; Enneson and Litzgus, 2008; Dodd et al. 2016)。例えば、Dodd et al. (2016) はカロリナハコガメ (*Terrapene carolina*) では、採集圧 (生息数全体に対する採集数の割合) が非常に低い値 (例えば, > 3.8 %) であったとしても、捕獲し続けることでやがて絶滅してしまうことを定量的に予測した。

日本広域に分布する固有種のニホンイシガメ (*Mauremys japonica*) もまた、乱獲等の人為的要因によって分布域の各地から消失しつつあるカメ類の1つである (Yasukawa et al., 2008; 加賀山・小賀野, 2024)。現在、ニホンイシガメは絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約) 附属書 II 掲載種であるとともに、環境省のレッドリストにおいて準絶滅危惧に選定されている (環境省, 2020, 2025年12月7日現在)。環境省の調査により、本種は日本全体で約 980,000 個体が生息していると推定されているが、平成 25 年 8 月から平成 27 年 9 月の間に約 28,000 個体が輸出されたことが明らかとなった (環境省, 2015a, 2015b)。輸出された個体は特定の地域に偏って捕獲されていたことから、こうした過剰利用が続けば地域個体群または局所個体群の絶滅の恐れがあり、またそ

れが連続的に生じることで将来的には種の存続を脅かす過剰な利用が行われている状態にあると指摘された (環境省, 2015a, 2015b)。

このような背景から、環境省は当分の間、ワシントン条約附属書 II 掲載種であるニホンイシガメの輸出申請に対して、サイズの小さい未成熟個体と飼育繁殖個体についてのみ、ワシントン条約の科学当局として「当該輸出が当該動植物の種の存続を脅かすものでない」旨の助言を行うこととなった (環境省, 2015b)。しかしながら、野生個体の採集や国内流通には条例や法令等での規制がかかっておらず、依然として野外で捕獲されたと思われる数多くの個体が流通している (寺岡・藤田, 2017)。幸いなことに本種では、愛好家らによって飼育繁殖技術が確立され、現在ではペットショップや展示即売会等においても数多くの飼育繁殖個体が流通するようになってきている。今後、飼育繁殖個体がより安価で流通するようになれば、野生からの捕獲に頼ることなくニホンイシガメを飼育し続けることが可能となるが、これまでにニホンイシガメの野生個体と飼育繁殖個体の流通量や販売価格等に関する情報は全く報告されていない。そこで、本研究では爬虫類・両生類の展示即売会で販売されているニホンイシガメの販売数や価格等を整理し、流通状況を明らかにすることを目的とした。

## 方法

2023 年 5 月から 2025 年 10 月にかけて、関東地方 (主に東京都) で開催された計 11 回の爬虫類・両生類の展示即売会 (即売会 A : 4 回, 即売会 B : 2 回, 即売会 C : 1 回, 即売会 D : 3 回, 即売会 E : 1 回) において、ニホンイシガメの販売価格等に関する情報を収集した。記録項目は店舗名、ニホンイシガメの背甲長、性別、産地、販

売個体数, 価格, 由来 (飼育繁殖個体, 野外採集個体) の 7 項目とした. 本稿では店舗名の記載は行わず, 記号 (例えば, 店 1) で表現することとした. 背甲長は値札に記載された数値または目測によるおおよその大きさとし, 販売個体数とともに可能な限り記録するよう努めた. 販売個体の値札に性別が記載されていた際は記録するとともに, 形態的特徴 (例えば, 尾の付け根の太さ, 背甲長) から性別が明確な場合は記録した. 由来のうち, 飼育繁殖個体または野外採集個体のどちらにも分類できないもの (値札に未記載) は不明として記録した. 販売個体の産地について, 島嶼名や水系名等の詳細な採集場所を記載した店舗がいくつか見られたが, 保全上の観点 (例えば, 乱獲を助長する恐れがある) から都府県までの記載に留めた. また, 飼育繁殖個体についても産地を記載している店舗が見られたが, 繁殖用の種親を採集した地域, または飼育繁殖個体が生まれた地域のどちらを指しているのかを判別することはできなかった. なお, 販売開始直後の時間帯に展示即売会へ参加できていない調査回もあるため, いくつかの個体が商取引された後に販売個体数を記録している可能性があることに留意する必要がある. また, 今回参加した展示即売会の内, 即売会 D と即売会 E は飼育繁殖個体のみが販売対象となっていた.

作図及び統計解析には R (ver 4.4.3, R Core Team 2025) を使用した.

## 結果

ニホンイシガメの展示即売会ごとの販売価格等の記録を付録 (付録 1. ニホンイシガメの販売情報 <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.32125447>) に示した. 背甲長が 3cm ほどの孵化幼体から 8cm を超えるオスの成体や 15cm を超えるメスの成

体等の幅広いサイズの個体が多数販売されていた. 岐阜県, 静岡県, 広島県, 鹿児島県, 埼玉県等との産地の記載のある個体が販売されていたが, 多くの個体については産地が不明であった. 販売個体の由来別の割合は飼育繁殖個体で 83.8%, 野外採集個体で 14.8%, 不明で 1.4%であった. 即売会 D や即売会 E での販売個体の由来が全て飼育繁殖個体であったのに対して, 即売会 A や即売会 C, 即売会 B では野外採集個体を出品する店舗が見られ, 特に即売会 A では野外採集個体の頻度が高かった (図 1A). メスの成体の全てが野外採集個体である一方で, オスの成体は飼育繁殖個体と野外採集個体がほぼ同頻度で販売されていた (図 1B, 付録 1). また, 幼体 (背甲長 3~6cm 程度) のほぼ全てが飼育繁殖個体であった (図 1B, 付録 1).

オスとメスのペア販売等を含めると, 販売価格の範囲は 500 円から 25,000 円, 販売個体数は 1 個体から 20 個体以上と店舗ごとにばらつきが見られた. 展示即売会ごとの販売価格 (複数個体のセット販売を除く) の平均値は即売会 C で 5,080 円 (中央値 3,800, 範囲 1,000-10,000, 標準偏差 3,421.86,  $N = 12$ ), 即売会 E で 2,500 円 (中央値 2,250, 範囲 2,000-3,500, 標準偏差 707.11,  $N = 4$ ), 即売会 D で 3,383.64 円 (中央値 2,000, 範囲 500-18,000, 標準偏差 3,198.76,  $N = 38$ ), 即売会 A で 5,379.73 円 (中央値 4,000, 範囲 1,000-18,000, 標準偏差 3,628.46,  $N = 74$ ), 即売会 B で 5,442.86 円 (中央値 5,000, 範囲 2,500-7,800, 標準偏差 1,720.33,  $N = 7$ ) であった (図 2A). ウィルコクソンの順位和検定 (ボンフェローニ補正) より, 即売会 D と即売会 A 間 ( $P < 0.001$ ) でのみ中央値に有意差が検出された. また, 全展示即売会のデータを統合したニホンイシガメの由来別の販売価格は飼育繁殖個体で 4,552.70 円

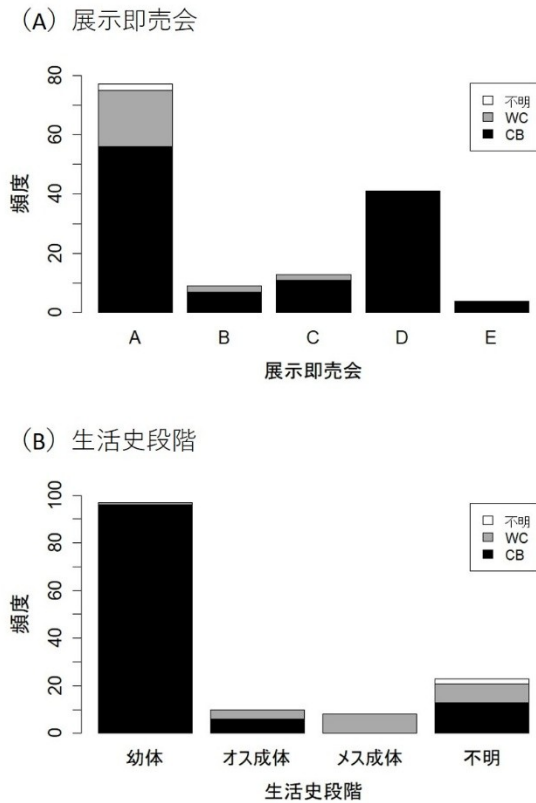


図 1. 展示即売会と生活史段階ごとのニホンイシガメが販売されていた頻度 (延べ店舗数)。CB は飼育繁殖個体, WC は野外採集個体を表す。ニホンイシガメが 1 個体でも販売されていた店舗を 1 つとしてカウントし, 同一店舗であっても展示即売会のイベントが異なるものは別サンプルとして集計した。生活史段階は背甲長が 3~6cm の個体を幼体, 8cm 以上のオスをオス成体, 15cm 以上のメスをメス成体, 性別の記入漏れ等の理由により上記のどれにも分類できない個体を不明 (メスの未成熟個体を 1 個体加えた) とした。また, セット販売の個体を含めて図示した。

(中央値 3,300, 範囲 500-18,000, 標準偏差 3,457.06,  $N = 115$ ), 野外採集個体で 5,609 円 (中央値 4,000, 範囲 1,500-15,800, 標準偏差 3,488.8,  $N = 20$ ) であった (図 2B)。ウィルコクソンの順位和検定より, 飼育繁殖個体と野外採集個体間の販売価格の中央値には有意な違いは見られなかった ( $P = 0.07$ )。

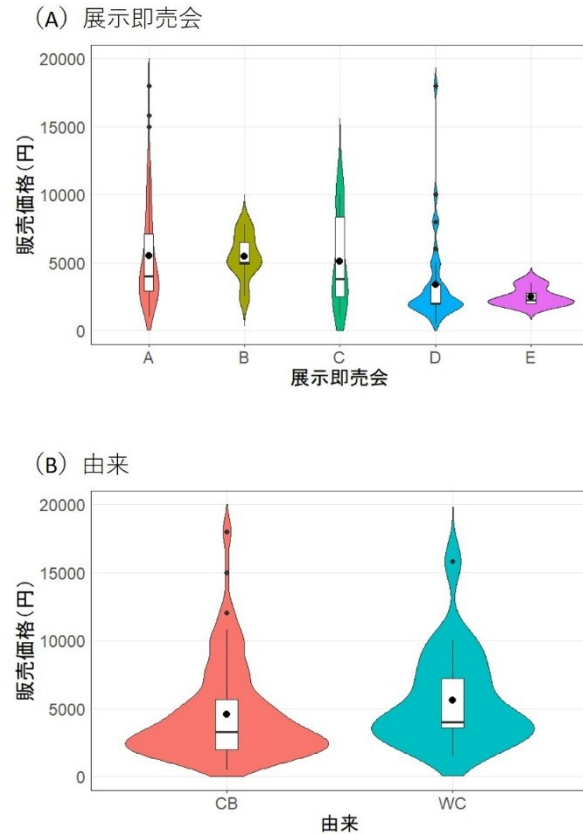


図 2. 展示即売会と由来ごとのニホンイシガメの販売価格。CB は飼育繁殖個体, WC は野外採集個体を表す。塗りつぶされた図形はバイオリンプロット, 白抜き図形は箱ひげ図を示す。箱ひげ図内の黒色のプロットは平均値, 横線は中央値を表す。なお, 図 B においては由来が不明の 2 個体を除外して図示した。

## 考察

### 販売実態

複数の展示即売会を対象とした調査により, 近年流通するニホンイシガメの販売個体の由来は飼育繁殖個体を中心であることが明らかとなった。2010 年代頃の展示即売会において, 野外採集と思われる多数のニホンイシガメ (主にメス成体) が山積み状態で販売されていたことに比べると (例えば, 寺岡・藤田, 2017), 近年は野外採集個体の販売数が減少傾向にあるのかもしれない。背甲長が 3~5cm 程度の幼体 (当歳) が 2,000~4,000 円ほどの価格で多数販売されていたこと

は、ブリーダーらによる飼育繁殖が軌道に乗り、流通システムが構築されつつあることを示唆している。従って、将来的には野生個体の採集に頼らない商業的な利用が可能になることが期待される。

その一方で、店舗数や個体数は多くないものの、日本各地を産地とする野外採集個体が確認されたことから、現在でもニホンイシガメが採集され続けていると考えられる。特に、成熟までに8~10年ほどの期間を要するメスの成体(Kagayama, 2020)では販売されていたものの全てが野外採集個体であったことから、種親用に数多く捕獲され、その一部が販売され続けている可能性がある。実際に、ニホンイシガメの長期的な標識再捕獲調査を実施している地域において、カメと思われる生物が入った麻袋を持つ不審者との遭遇事例や採集者が持ち去った後にカメが全く見られなくなったとの地元の方による証言があることに加え(西堀他, 2024), 調査のために個体識別された個体が販売されていた流通事例があることから(西堀, 2014), 局所個体群の存続を脅かす野外採集を迅速に抑制することが望まれる。ただし、2025年3月12日付けで一般社団法人日本爬虫類両生類協会より「野生個体の取り扱い自粛要望書」が発出され、野外で採集されたニホンイシガメおよびヤエヤマイシガメの販売及び取り扱いの自粛が販売業者に求められたことから(楠田, 2025), 今後はニホンイシガメの野外採集個体の販売数がより減少していくことが期待される。

本調査において、ニホンイシガメの野外採集個体の販売数が少なかった原因としては、調査対象とした展示即売会の方針や個体の搬入に伴うコスト、業界内での野外採集個体の販売自粛等が強く影響している可能性がある。今回、調査対象とした即売会Dと即売会Eは飼育繁殖個体のみを

販売するイベントであるため、飼育繁殖個体に偏った販売記録を収集してしまった可能性も否定できない。また、ニホンイシガメは最大で背甲長が約20cm、体重が約1kgまで成長する生物であり(Yabe, 1989; 加賀山, 未発表), 販売する際に大きな展示スペースを要するとともに個体の移動に多大な労力がかかることから、実店舗からの持ち込みを控えた可能性がある。しかし実際には、ペットショップ等の実店舗では未だに野外採集と思われる個体が販売されていることから(加賀山, 未発表), 今後はペットショップ等の実店舗を含めた包括的な調査を実施し、より詳細にニホンイシガメの販売数や販売価格及び由来を明らかにしていく必要があるだろう。特に、現在のニホンイシガメの主要な分布域である西日本を中心に(Yasukawa et al., 2008; Kagayama et al., 2020), 展示即売会及びペットショップ等の実店舗を対象とした流通実態の定量評価を行うことが重要になると考えられる。

カメ類は魚類や両生類等の他の分類群と異なり、野外採集個体の販売実態が把握しにくい生物である。淡水魚やサンショウウオ類等のようにインターネットオークションで個人での販売が可能である生物については、取引状況が閲覧可能な状態で残る利点を活用した販売実態の定量化が進められてきた(高久・諸澤, 2021; 照井・徳田, 2021; 上野・江口, 2023)。しかしながら、現在、爬虫類は動物愛護管理法によって対面での販売(説明)が義務付けられているため([https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1\\_law/trader.html](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1_law/trader.html), 2025年12月7日最終確認), 基本的にはインターネット上に取引に関する情報が残されておらず、ペットショップ等の各店舗での現地調査を実施しない限り、流通状況に関する基礎情報が収集できずにいた。数多くの店舗が

出店する展示即売会は爬虫類の流通実態を効率的に把握することが可能な機会となるため、今後はペットショップ等の実店舗での販売情報を併せることで、対象種の全体的な流通状況を把握することが可能になるだろう。

### 保全への示唆

一般的に、淡水生カメ類はメスの成体の生存率が僅かに低下しただけで個体群の存続性が劇的に低下するため (Congdon et al., 1993, 1994 ; Enneson and Litzgus, 2008), 業者による商業目的の乱獲だけでなく、マニア等の私的利用 (例えば、観賞用や繁殖用個体の採集) による少数個体の継続的な採集によっても、局所絶滅を引き起こす恐れがある (例えば, Dodd et al., 2016). 局所絶滅に至らなかったとしても、個体数を迅速に回復させることが困難なカメ類にとって (Pitt and Nickerson, 2013 ; Keevil et al., 2018 ; Mullin et al. 2020), 乱獲等による急速な低密度化は個体群存続に対する重大な脅威となるだろう。従って、分布域の各地から消失しつつあるニホンイシガメ (Yasukawa et al., 2008 ; 加賀山・小賀野, 2024) の将来的な局所絶滅を食い止めるために、野生個体 (特にメスの成体) の採集規制は必須な保全対策の1つになると考えられる。

野生個体の採集を禁止しつつ、許可を得た事業者のみが飼育繁殖個体を販売することが可能な枠組みとして「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)」により指定される「特定第一種国内希少野生動植物種 (以下、特定第一種)」がある (例えば, 令和7年に動物で初めて指定されたゼニタナゴ, <https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/list.html>, 2025年12月7日最終確認)。ニホンイシガメもこの特定第一種に指定すれば野生個体

を採集圧から守るとともに、許可を受けて正規に得られた飼育繁殖個体を市場に流通させることができるため、違法採集を抑制することが可能になると期待される。しかしながら、特定第一種へと指定するためには、解消しなくてはならない大きな課題が残されている。特定第一種を含む国内希少野生動植物種は、環境省レッドリストの絶滅危惧種の中から指定されるため (<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/hozonho.html>, 2025年12月7日最終確認), 現状で準絶滅危惧と評価されているニホンイシガメはそもそも候補種の対象にすらならない。従って、早急に絶滅危惧種へとランクが上がるよう、生息状況を定量的に評価した論文を多数出版し、現在置かれている危機的状况を社会へと広く発信していく必要があるだろう。また、特定第一種へと指定されることにより生じる弊害も存在する。特定第一種へと指定されるとニホンイシガメの捕獲等が禁止され、許可を受けていない捕獲ができなくなることから、生息状況把握を目的とした捕獲調査が実施されにくくなる恐れがある。加えて、魚類を対象として設置した漁具 (例えば, カニ籠) に混獲される事例が知られており (山口, 2019), 非意図的に捕獲された際の対処法等, 事前に調整が必要な課題が残されている。1つの解決策として、特定第一種ではあるが再放流を前提とした捕獲調査の容認等, キャッチ&リリースを許容する運用とすることで, 上記の問題には柔軟に対応することができると考えられる。

### 追記

本稿が投稿された時点では、環境省のレッドリストにおいてニホンイシガメは準絶滅危惧に選定されていたが (環境省, 2020), 2026年3月17日に公表された第5次レッドリストにおいて、準

絶滅危惧から絶滅危惧II類 (VU) へとカテゴリーが1段階引き上げられ, 絶滅危惧種と評価されることとなった(環境省, 2026) 点に留意する必要がある。

### 謝辞

原稿の改訂に有益なご意見をいただいた高橋洋生氏と御亀楽編集部に感謝申し上げます。

### 引用文献

- Congdon, J. D., Dunham, A. E., and van Loben Sels, R. C. 1993. Delayed sexual maturity and demographics of Blanding's turtles (*Emydoidea blandingii*): implications for conservation and management of long-lived organisms. *Conservation Biology* 7: 826–833.
- Congdon, J. D., Dunham, A. E., and Sels, R. V. L. 1994. Demographics of common snapping turtles (*Chelydra serpentina*): implications for conservation and management of long-lived organisms. *American Zoologist* 34: 397–408.
- Dodd, C. K., Rolland, V., and Oli, M. K. 2016. Consequences of individual removal on persistence of a protected population of long-lived turtles. *Animal Conservation* 19: 369–379.
- Enneson, J. J., and Litzgus, J. D. 2008. Using long-term data and a stage-classified matrix to assess conservation strategies for an endangered turtle (*Clemmys guttata*). *Biological Conservation* 141: 1560–1568.
- Gibbons, J. W., Scott, D. E., Ryan, T. J., Buhlmann, K. A., Tuberville, T. D., Metts, B. S., Greene, J. L., Mills, T., Leiden, Y., Poppy, S., and Winne, C. T. 2000. The Global Decline of Reptiles, Déjà Vu Amphibians. *BioScience* 50: 653–666.
- Iverson, J. B. 1991. Patterns of survivorship in turtles (order Testudines). *Canadian Journal of Zoology* 69: 385–391.
- Kagayama, S. 2020. Geographic variation in the growth of Japanese pond turtles, *Mauremys japonica*, in the flatland and mountain regions of Chiba Prefecture, Japan. *Current Herpetology* 39: 87–97.
- 加賀山翔一・小賀野大一. 2024. 日本における淡水性カメ類の減少要因とその出現過程. 爬虫両棲類学会報 2024(1): 1–15.
- Kagayama, S., Ogano, D., Taniguchi, M., Mine, K., Ueno, S., Takahashi, H., Kamezaki, N., and Hasegawa, M. 2020. Species distribution modeling provides new insights into different spatial distribution patterns among native and alien freshwater turtles in Japan. *Current Herpetology* 39: 147–159.
- 環境省. 2015a (2023/11/17 最終確認). ニホンイシガメの輸出に係る助言に関する意見の募集(パブリックコメント)について: ニホンイシガメの輸出に係る助言について(平成27年10月28日中央環境審議会自然環境部会野生生物小委員会資料3). <https://www.env.go.jp/press/101596.html>
- 環境省. 2015b (2023/11/17 最終確認). ニホンイシガメの輸出に係る助言の実施方針について. <https://www.env.go.jp/press/101740.html>
- 環境省. 2020 (2023/11/17 最終確認). 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>
- Keevil, M. G., Brooks, R. J., and Litzgus, J. D. 2018. Post-catastrophe patterns of abundance and survival reveal no evidence of population recovery in a long-lived animal. *Ecosphere* 9:

- e02396.
- 楠田哲士. 2025. 〈総論〉日本の淡水生・陸生カメ類の危機と保全 — 特集企画に際して. 生物の科学 遺伝 79(6): 482-487.
- Moll, D., and Moll, E. O. 2004. The ecology, exploitation and conservation of river turtles. Oxford University Press on Demand, New York. 393p.
- Mullin, D. I., White, R. C., Lenyini, A. M., Brooks, R. J., Bériault, K. R., and Litzgus, J. D. 2020. Predation and disease limit population recovery following 15 years of head starting an endangered freshwater turtle. *Biological Conservation* 245: 108496.
- 西堀智子. 2014. 爬虫両生類情報交換会「南房総イシガメ観察会」による館山市 A 地区のカメ類の生息状況～近年のイシガメ減少の原因について～. 第 2 回淡水ガメ情報交換会 講演要旨集. p. 90-91. 認定 NPO 法人 生態工房, 東京. (講演要旨)
- 西堀智子・加賀山翔一・松本健二・長谷川雅美. 2024. 長期調査から見えるニホンイシガメ減少の実態 ～爬虫両生類情報交換会「南房総イシガメ観察会」が語るもの～. 爬虫両棲類学会報 2024(1) : 28-37.
- Pitt, A. L., and Nickerson, M. A. 2013. Potential recovery of a declined turtle population diminished by a community shift towards more generalist species. *Amphibia-Reptilia*, 34(2), 193-200.
- R Core Team. 2025. R: A Language and Environment for Statistical Computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna. <https://www.r-project.org/>
- Rachmansah, A., Norris, D., and Gibbs, J. P. 2020. Population dynamics and biological feasibility of sustainable harvesting as a conservation strategy for tropical and temperate freshwater turtles. *PloS one* 15: e0229689.
- Stanford, C.B., Iverson, J.B., Rhodin, A.G.J., Paul Van Dijk, P., Mittermeier, R.A., Kuchling, G., Berry, K.H., Bertolero, A., Bjorndal, K.A., Blanck, T.E.G., Buhlmann, K. A., Burke, R.L., Congdon, J.D., Diagne, T., Edwards, T., Eisemberg, C.C., Ennen, J.R., Forero-Medina, G., Frankel, M., Fritz, U., Gallego-García, N., Georges, A., Gibbons, J. W., Gong, S., Goode, E.V., Shi, H.T., Hoang, H., Hofmeyr, M.D., Horne, B.D., Hudson, R., Juvik, J.O., Kiester, R.A., Koval, P., LE, M., Lindeman, P.V., Lovich, J.E., Luiselli, L., McCormack, T.E.M., Meyer, G.A., Paez, V.P., Platt, K., Platt, S.G., Pritchard, P.C.H., Quinn, H.R., Roosenburg, W.M., Seminoff, J.A., Shaffer, H.B., Spencer, R., Van Dyke, J.U., Vogt, R.C., and Walde, A.D., 2020. Turtles and tortoises are in trouble. *Current Biology* 30: R721-R735.
- 高久宏佑・諸澤崇裕. 2021. ネットオークションによる絶滅危惧魚類の取引状況と取引特性の類型化. 保全生態学研究 26 : 249-260.
- 照井滋晴・徳田龍弘. 2021. インターネットオークションによるトウキョウサンショウウオの販売実態と特定第二種国内希少野生動植物種指定の効果. 爬虫両棲類学会報 2021(1) : 52-58.
- 寺岡誠二・藤田宏之. 2017. 急増する大規模な爬虫類などの即売会イベントについて. 第 4 回淡水ガメ情報交換会 講演要旨集. p. 67-69. 認定 NPO 法人 生態工房, 東京. (講演要旨)
- 上野裕介・江口健斗. 2023. 小型サンショウウオ

- 類から見たインターネット・オークションによる希少野生生物の取引実態. 保全生態学研究 28 : 67-79.
- 山口達成. 2019. モクズガニ捕獲時に混獲されるニホンイシガメ. 亀楽 17 : 1.
- Yabe, T. 1989. Population structure and growth of the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*. Japanese Journal of Herpetology 13(1): 7-9.
- Yasukawa, Y., Yabe, T., and Ota, H. 2008. *Mauremys japonica* (Temminck and Schlegel 1835)—Japanese pond turtle. p. 003.1-003.6 In: A. G. J. Rhodin, P. C. H. Pritchard, P. P. Van Dijk, R. A. Saumure, K. A. Buhlmann, and J. B. Iverson, (eds.), Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group. Chelonian Research Monographs No. 5. Chelonian Research Foundation, Lunenburg, MA.